スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

岩手県宮古市

自治体名 ： 岩手県宮古市
担当課名 ： 宮古市教育委員会事務局　生涯学習課
電話番号 ： 0193-98-9120

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

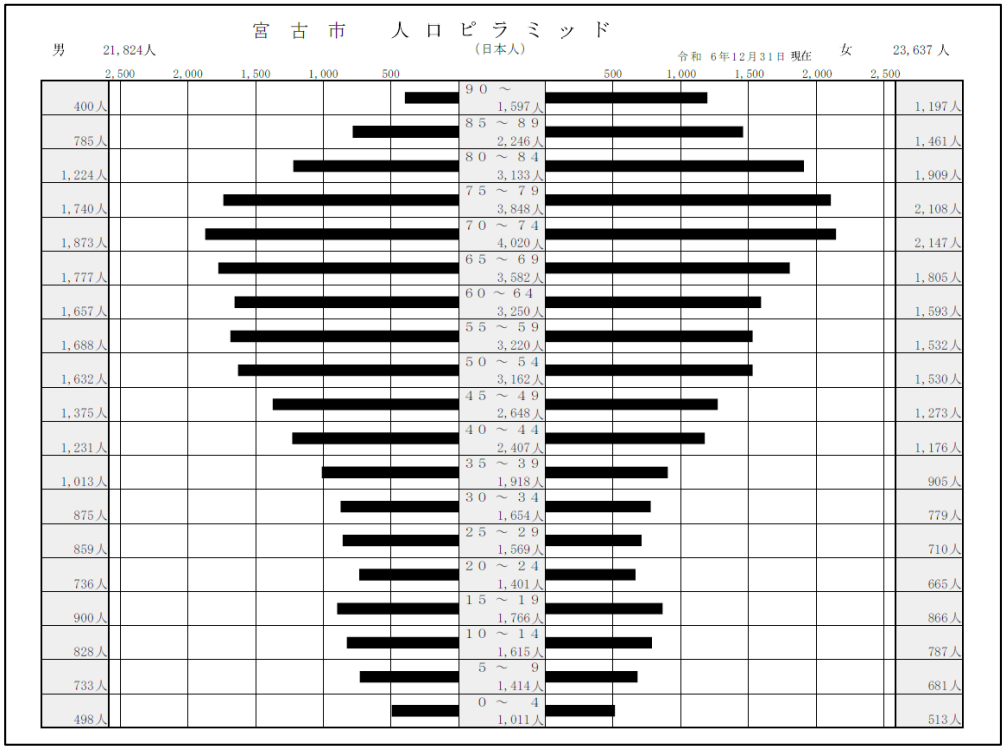
面積	1259.18 ㎢
人口	45,632 人
公立中学校数	11校
公立中学校生徒数	973人
部活動数	90部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	宮古市部活動地域移行検討委員会　R5.6.1設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	宮古市の中学校運動部活動地域移行プロセス及び部活動の地域移行基本方針 R6.6.1策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

岩手県の沿岸部のほぼ中央、本州では最東端に位置している。東に太平洋を望み、西は北上山地を仰ぎ、市の西側は県都盛岡市と隣接し、南側は花巻市、遠野市、山田町に、北側は、岩泉町に接している。総面積は1,259.15平方kmで岩手県の総面積8.2%を占めている。

都道府県内では、北海道に次ぐ広大な面積を有する岩手県の中で、宮古市は市町村の中で市域　（面積）が一番広い市となる。

また、市域が広いことから、山間部、沿岸部、中山間部の小規模校から市街地付近の比較的生徒が多い中学校まで様々である。少子化にともない団体スポーツはほとんどの学校が単独で取り組めない状況である。そこで、学校・地域・スポーツ関係団体等が連携し、学校部活動を支えながら、多様な体験活動を構築することが急務である。今後、少子化がますます進行する中で、団体スポーツ等は、広い市域の各地区から拠点施設に集まっての活動が主体となることが予想される。この際の移動手段、移動に係る経費負担や活動経費の負担が大きな課題となる。また、指導者の確保、指導者の資質の向上、地域スポーツクラブの受け皿となる体制整備も大きな課題である。



2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（宮古市における推進体制図）

＜部活動地域移行推進実働チーム＞　通称『まず Kadatte』
＜推進員＞（６人）
〇役割分担
・総括　生涯学習課スポーツ振興係　（副主幹）
・予算・申請等　生涯学習課スポーツ振興係　（副主幹兼係長）
・学校関係調整　学校教育課教育研究所　（所長・相談員）
・部活動情報把握・分析等　学校教育課教育研究所　（ICT支援員）
・芸術・文化団体調整　文化課文化係　（係長 ）
・地域学校協働推進　生涯学習課社会教育係(統括的地域学校協働活動推進員)

＜協力団体等＞
・学校関係
体育関係　中体連事務局（事務局長）
文化関係　中文連事務局（事務局長）
・競技団体等
体育関係　体育協会　（総務係長）
文化関係　芸術文化協会（会長）

●行政組織内での役割分担
◉教育委員会
現状把握（学校訪問、部員数の把握、合同部活動の把握、アンケート結果分析）
競技団体等への情報発信、実証事業実施、検討委員会の運営

◉首長部局
実証事業実施に係る施設利用への協力
教育委員会事務局等との連携

年間の事業スケジュール

令和6年４月	**部活動地域移行方針作成**
令和6年５月	**市内小中学校へ方針等説明** **各競技協会へ方針等説明**
令和6年５月～６月	**市内小中学校訪問・実態把握（部活動・部員数・合同部活動）**
令和6年６月	**第３回検討委員会の開催**
令和6年６月～令和７年２月	**実証事業実施（地域クラブ）**
令和7年１月	**指導者講習会の開催**
令和７年２月	**地域クラブ合同練習会** **地域クラブ指導者連携集会**
令和7年３月	**実証事業取組のまとめ** **第４回検討委員会の開催**

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	１１ 校	実施した地域クラブ総数	8 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3
	B：多様な活動を地域クラブとして実施	実施した地域クラブ数	5
全体の指導者数	４６人	全体の運営スタッフ数	６人

②各クラブに関すること

	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
Kadatte柔道クラブ	競技協会	柔道競技	月 2 回	9:00 ～12:00	1年:10名 2年:10名 3年:10名	7月～ 2月	河南中格技場	7人	3人	会費０ 円	中体連：部活動
Kadatte剣道クラブ	競技協会	剣道競技	月１ 回	9:00 ～12:00	1年:10名 2年:10名 3年:10名	7月～ 2月	シーアリーナ	12人	3人	会費0 円	中体連：部活動
宮古ラグビースクール中学部	競技協会	ラグビーフットボール	週４ 回	17:30 ～19:00 休日9:00 ～11:00	1年:6名 2年:5名 3年:5名	通年	へいがわ老木公園グランド	5人	６人	年会費10,000円（スポーツ安全保険含む）	中体連：部活動 その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●Kadatte陸上競技チャレンジ教室　開催回数：３回 参加者延べ：６０名 指導者：５名 実施時間： 9:00～12:00 活動場所：宮古市陸上競技場
●Kadatte宮古港ボート天国　開催回数：１回 参加者：　１０名 指導者：３名 実施時間：10:00～12:00 活動場所：リアスハーバー宮古
●みんなKadatte野球教室　開催回数：２回 参加者延べ：１５名 指導者：２名 実施時間： 9:00～12:00 活動場所:津軽石中グランド
●まずKadatte合同トレーニング　開催回数：１回 参加者　：７０名 指導者：31名 実施時間： 9:30～12:00 活動場所:シーアリーナ（メインアリーナ）
●Kadatteバレーボール講習会　開催回数：１回 参加者　２２名 指導者：11名 実施時間：15:00～16:30 活動場所:シーアリーナ（メインアリーナ）

2.実証内容と成果

スポーツ庁

主な取組例

Kadatte地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	柔道、剣道
運営団体名	宮古市教育委員会 部活動地域移行推進実働チーム
期間と日数	柔道：７月６日 ～ １月25日 月２回程度 剣道：６月29日 ～ 12月１日 月１回程度
指導者の主な属性	柔道：宮古柔道協会員 剣道：宮古剣道協会員
活動場所	柔道：宮古市市立河南中学校格技場 剣道：シーアリーナ（メインアリーナ）
主な移動手段	自家用自動車、徒歩、自転車
１人あたりの参加会費等（年額）	柔道：0円 剣道：0円
１人あたりの保険料	行事参加者障害保険 柔道：生徒１人あたり、353円/1回 剣道：生徒１人あたり、177円/1回

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）

**宮古市（宮古市教育委員会）
地域移行推進実働チーム**

○各中学校、各競技協会・協力団体等へ趣旨説明（合意形成）
○各競技協会・協力団体等へ地域クラブ活動実施依頼
○会場の確保及び調整
○必要物品等の調達及び調整
○移動手段の調整・相談
○会場費・謝礼・保険加入等事務
○実施報告書のまとめ

市内中学校

○実証事業案内の周知
○参加者の取り纏め
○参加生徒の報告
○事業に係る意見

地域クラブ協力団体

＜各競技協会・体育協会（地域総合型スポーツクラブ）＞
○実証事業実施計画作成
○市内中学校へ実施事業の案内、参加者募集
○実証事業実施・実施報告

体育協会（地域総合型スポーツクラブ）、宮古市陸上競技協会
宮古市野球協会、宮古剣道協会、宮古柔道協会、宮古市卓球協会、
宮古市バレーボール協会、宮古市バスケットボール協会、
宮古市サッカー協会、宮古ラグビーフットボール協会、
宮古シーカヤック協会

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

中学校休日の部活動の地域移行に向けた関係者で組織した「宮古市部活動地域移行検討委員会」の開催

取組の成果

〇今年度最初の検討委員会のおいて、学校部活動の地域移の実証事業に向けて、＜部活動地域移行推進実働チーム＞の設置、＜部活動の地域移行の基本方針＞の策定などを示し、本格的な事業実施計画を提案した。

〇各委員より、多くの意見が寄せられた。計画が具体的になり全体的には好意的な意見が多かった。一方、高校の委員からは、教員の働き方改革が喫緊の課題である。地域で取り組む小中高の活動が、それぞれの職を理解しながら、週休日の部活動が地域の活動になることを期待する。

〇中学校の委員からは、今後益々合同チームで大会に参加する学校が多くなることが予想される。学校現場と推進実働チームの連携を深めていきたい。などの意見が出された。

〇PTAの委員からは、活動が活発な部活動に所属すると、保護者の負担が大きい。活動が地域全体で行われるようになれば、保護者も安心して、子供たちの希望をかなえてやれる。などの意見が出された。

〇委員の皆様には、実際に活動を見ていただき、より具体的な感想・助言をいただくことになった。

（事務局より、定期的に案内文書を送付）

コーディネーターの具体的な動きの実績

〇推進実働チームの総括が、コーディネーターの役を担い、実証事業の受け皿となる各競技協会に方針説明を行い、合意形成を図った。

〇市内各中学校へ方針等を示し、地域との連携の在り方、各競技協会との連携との連絡調整を行った。

今後の課題と対応方針

〇移行に向けての実証事業での検証を進めながら、持続可能な部活動、地域クラブにするために、運営主体の選定をする必要がある。

〇本格実施に向け、地域クラブ運営協議会設置など運営形態の検討を進めていく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項

〇学校部活動常設部の支援

・柔道競技：指導者数　8名（全員有資格者）
　柔道協会員3名、顧問4名、部活動指導員1名
・剣道競技：指導者12名（全員有資格者）
　剣道協会員7人、中学校顧問3名、高校顧問2名

〇学校部活動特設部の支援

・陸上競技：9名（審判資格含む全員有資格者）
　陸上競技協会員5名、中学校顧問１名、高校顧問1名、総合型地域スポーツクラブ指導者2名
・ラグビーフットボール：指導者6名（全員有資格者）
ラグビー協会委員6名、JRFU公認C級コーチ3名

宮古市立中学校部活動指導員人材バンク(※)
10名

年齢構成	
10代	0名
20代	0名
30代	4名
40代	3名
50代	2名
60代以上	1名

登録者属性
職業は自営業や会社役員、会社員などである。学校や競技協会からの紹介で人材バンクに登録するケースが主である。現時点で登録しているのは全て男性である。

種目
ラグビーフットボール バスケットボール 柔道、軟式野球 卓球等

資格有無
JRFU公認スタートコーチ JRFU公認Cコーチ 公認柔道B指導員（四段）審判員Cライセンス JBA公認C級コーチJSPO公認コーチングアシスタント ほとんどが有資格者である。中には、競技経験者であるが、資格なしの登録者もいる。

※市立中学校における部活動指導員の人材確保、並びに部活動の質的な向上等を図るために人材バンクへの登録を行っている。

取組の成果

＜指導者の感想＞

・意欲ある生徒に専門的な指導ができる喜びがある。（陸上）
・各学校に特設部を設置していただき、大会参加できたことに感謝したい。（ラグビーフットボール）
・大勢で集まり、活動していると子供たちの目がどんどん輝いてくるのがわかる。（剣道）
・切磋琢磨しながら、稽古に打ち込む姿に感動する。（柔道）

＜専門的な指導場面＞





2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

宮古地区スポーツ少年団協議会主催（市教育員会と市体育協会後援）で日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格保有者の資格更新のための研修会を開催した。受講内容は、指導に関する知識と情報、指導者としての資質向上と活動の推進及び、組織活用と活性化等であった。

コンプライアンスとトレーニングについての講義を受け、「理想の指導者」とは何かを改めて考え、効率的で安全なトレーニングについての知識を得る機会となった。

スポーツ指導者資格保有者は、４年に一度、盛岡市で開催される資格更新研修会を受講しなければならなかったが、資格保有者の負担軽減と資格継続促進のため、宮古市で受講できるようになった。

指導者研修の参加実績

・開催日：令和７年１月19日（日）
・開催回数：　１回
・参加人数：　８人

資格保有者７名、非保有者１名の参加であった。今後は継続開催について再度周知し、参加者の増加を図っていく必要がある。

受講者の声

〇開催場所が近くなって参加しやすくなった。今後も継続開催してほしい。
〇資格更新研修が受講しやすくなったことで、資格保有者の負担が減ることや、これから指導者資格を取得する人とってもハードルが下がるので良いと思う。
〇資格保有者だけでなく、スポーツをしている子供に関わる人のためになる講習会だった。
〇子供たちを指導するうえで、注意しなければならないことや、大切な心構え等を再認識できた。
〇資格保有者が増えて、地域クラブの指導者として活躍してほしい。

今後の課題と対応方針

スポーツ指導者の人材不足解消の一助となるよう、継続して開催する必要がある。

また、指導者のスキルや知識の質を確保するため、また指導者間の情報共有の場や、知識を習得できる講習会の開催など、支援体制を整備していく。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

〇休日の部活動の地域移行として、宮古市体育協会加盟団体の競技協会に実証事業への実施依頼を行った。理念、方針に賛同し、合意形成がなされた競技協会が地域クラブとして実証事業を実施した。

＜参加依頼をした競技協会数＞　10
＜競技協会主催で実施した地域クラブ数＞　7
＜競技協会合同で実施した地域クラブ数＞　1

取組の成果

〇休日の地域クラブに参加した中学生の在籍する校長たちからは、単独で大会などに参加できなくなってきている現状で、地域クラブで多数の生徒が参加して活動ができることは、大いに賛同できる取り組みである。今後も継続してほしい。との意見があった。（中学校校長会）
〇休日の地域クラブの受け皿になった各競技協会が、円滑に実証事業が実施できるように、中学校への案内文章・実施要項作成、参加のとりまとめ方法等への支援補助を行った。
〇休日の地域クラブ活動に取り組んだ競技協会の指導者からは、各道場を中心に活動していたが、協会としてまとまって活動することで、競技人口が増え、指導者確保や育成につながる取り組みである。との意見があった。（柔道・剣道）
〇審判が中心の協会だったが、実証事業に参加して指導もできる協会を目指したいとの意見があった。（陸上・バレーボール）

バス等の運行実績

〇スクールバス利用
・日数　12日
・利用者数　42人
・運行経路　重茂中⇔河南中
移動距離片道14.9km
〇公共交通の実証事業(中学生は運賃無料)の利用は、時間帯が合わず利用者なし

バス等の運航経費・収入

・人件費
学校部活動として、地域クラブに参加のためスクールバスを利用（学校教育課負担）
・利用料
0円

今後の課題と対応方針

広大な地域のため、移動に時間がかかり地域格差を生んでいる。実証事業期間の地域クラブ活動への参加者の移動方法は、ほとんどが保護者の送迎になっている。安定した移動手段の確保（予算含む）が課題である。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

〇学校部活動の常設部７競技団体に受け皿を依頼し４競技団体が地域クラブとして実証事業を行った。（市内全地域）
〇陸上競技は市内全校が特設部として活動しており、大会参加する生徒を対象として陸上教室を実施した。（市内全地域）
〇ラグビーフットボール競技は、大会参加条件が「学校部活動であること」であるため、参加する生徒の所属の学校6校に特設ラグビー部を設置してもらい大会参加を果たした。

各自治体の役割

〇宮古市教育委員会
・競技団体に地域クラブ活動を依頼
・予算管理（会場費、保険等）
・関係機関との連絡・調整
・移行周知に向けての広報
・謝金等の事務処理

移動手段

〇広大な地域のため、移動に時間がかかることと路線バスの便も悪いことから、参加する生徒のほとんどが保護者の送迎である。
〇柔道競技おいては、遠方より参加する生徒が部活動として地域クラブに参加する場合は、スクールバスを運行した。
・利用者数42人
・運行経路
　重茂中⇔市立河南中

事務局運営の方法

〇宮古市教育委員会に
部活地域移行実働チーム設置
　チーム名
　　通称「まずKadatta」

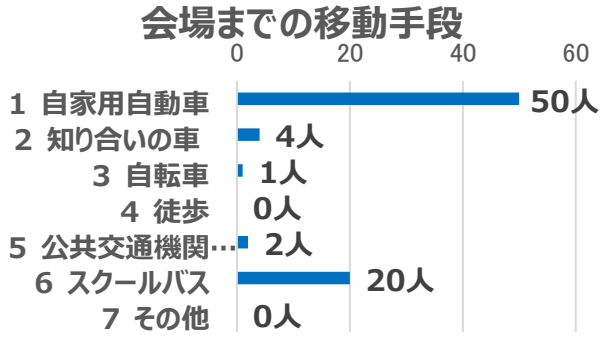
〇統括が、学校・関係団体等との連絡調整を行う
〇予算は、実証事業業委託料を活用

取組の成果

〇部員数の少ない柔道・剣道競技において地域クラブとして合同練習会を開催した。
〇特設部活動の支援として、陸上教室を全天候トラックを有する市の陸上競技場で開催することができた。

今後の課題と対応方針

〇持続可能な部活動、地域クラブには、指導者の確保が課題となる。
〇地域クラブの受け皿とな各競技協会が、大会の審判を中心とする競技協会から、指導もできる競技協会になるため、事務局と連携した取り組みを推進していく。（指導者養成講座の開催等）



2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実①

取組事項

＜実証事業競技＞

学校部活動（常設部）の支援

〇柔道競技：柔道協会主催
「みんなKadareru柔道教室」

〇剣道競技：剣道協会主催
「まずKadatte剣道教室」

〇野球競技：野球協会主催
「みんなKadatte！野球教室」

〇女子バレーボール競技：
バレーボール協会主催
「kadatteバレーボール講習会」

学校部活動（特設部）の支援

〇陸上競技：陸上協会主催
「みんなKadatte陸上教室」

〇ラグビーフットボール：
ラグビー協会主催協会
「みんなKadatte！ラグビー教室」

活動の詳細

参加人数	・柔道　：14回実施　延べ214人 ・剣道　：　6回実施　延べ107人 ・野球　：　2回実施　延べ 15人 ・バレー　：　1回実施　　22人 ・陸上　：　3回実施　延べ 60人 ・ラグビー　：　3回実施　延べ42人	指導者数	・柔道　：　8人 ・剣道　：１２人 ・野球　：　2人 ・バレー　：１１人 ・陸上　：　9人 ・ラグビー　：　6人
属性	指導者は、全競技とも各競技協会員(部活動指導員含む）と学校部活動の顧問		
具体的な内容	学校部活動の実態把握（各校の部活動数、部員数）をもとに常設部の休日の部活動の支援として、各競技協会が地域クラブとして活動を行った。 **＜実施の流れ＞　受け皿：各競技協会** 実証事業（地域クラブ活動：Kadatte教室）実施の流れ ①教育委員会事務局→各競技協会へ趣旨説明、協力依頼（合意形成） ②教育委員会(事務局「まずKadatte」)→各競技協会へ地域クラブ活動実施依頼 ③各競技協会→各中学校へ「まずKadatte教室」の案内 ④各中学校→各競技協会へ参加者希望者の報告 ⑤各競技協会、休日に「まずKadatte」教室の実施 ⑥各競技協会→事務局「まずKadatte」へ実施報告書（参加者名簿、指導者名簿）提出		
参加者の声	●参加してとてもよかった。７５％　、どちらかというと良かった１５％ ●休日の部活動が地域クラブに移行したら参加するか？参加する７６％ ●部活動以外に体験してみたいスポーツは、バドミントン、シーカヤック、ボクシング、レスリング等		
関係者の声	● 柔道や剣道競技おいて、休日や放課後は地域にあるそれぞれの道場で稽古をしていたが、今回の実証事業に参加して、一堂に集い練習することで協会が一つにまとまってきた。何より多くの生徒で稽古できることがとても良かった。 ● 地域クラブの指導者と学校部活動の顧問が協力して指導することの意義は大きい。		
運営経費	●会場費、指導者謝金、スポーツ安全保険負担金等は、事務局負担		

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

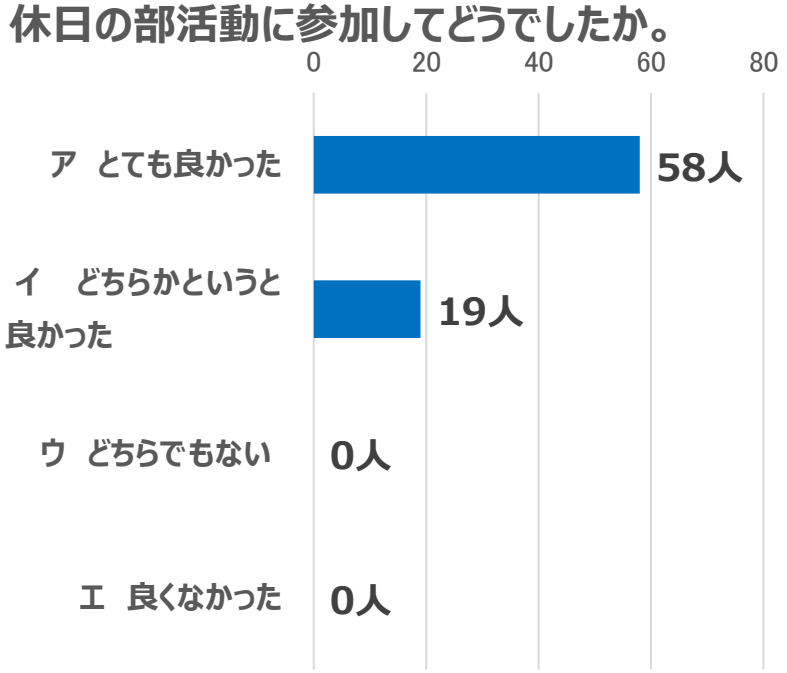
●取組項目名　オ：内容の充実②

取組の成果

〇実証事業に参加している中学生77人を対象としたアンケートの結果、回答者の75%が、参加してとても良かった。15%がどちらとかというと良かった。全体的に地域クラブへの参加についてはとても意欲的であった。

〇地域ごとに活動していた（道場等）少年団が、少子化と指導者の高齢化により、減少傾向にあったが、実証事業により、一か所で活動することになり、活性化が図られた。

〇各校の特設部が一堂に集うことで、各種大会に出場することが可能となった。



今後の課題と対応方針

〇中学生を対象としたアンケート結果によると、「休日の地域クラブは、学校部活動と異なる競技をやってみたい」と回答した生徒が半数以上いた。多様なニーズへの環境整備が必要となる。

〇希望が多かったバドミントンや陸上、シーカヤックについては、総合型地域スポーツクラブや競技協会と連携して、実施に向けて検討する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

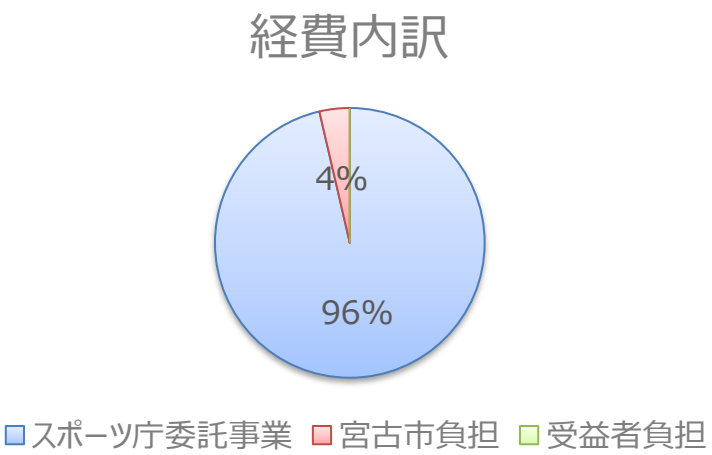
●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

実証事業に参加した７競技協会の指導者への謝礼金、参加生徒の保険料、会場使用料についてはスポーツ庁の業務委託費を活用した。その他は事業主体である宮古市が負担した。

地域クラブに係る経費

項　目		費用（円）	割合	備考
スポーツ活動費		**８８５，２７０**		
	謝礼金（指導者）	６２２，４００	70.3%	
	消耗品費	６２，０４０	7.0%	一部市負担
	会議費	８，０００	0.9%	市負担
	旅費	３，４００	0.4%	市負担
	保険料	１５１，８３０	17.2%	
	会場使用料	３７，６００	4.2%	



今後の課題と対応方針

〇現時点で地域クラブに係る経費について、受益者からの負担を求めておらず、今後受益者負担の考え方を整理する必要がある。
〇地域クラブの持続可能性に視点を置いたとき、一定の受益者負担は必要となることから、地域での持続可能な部活動の体制整備に向けて、学校、地域、競技団体と連携して検討を進める。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

〇実証事業の活動場所は、受け皿となる競技団体が、日頃から使用している学校体育施設及び市の社会体育施設等を拠点とした。

〇学校体育施設を活用した地域クラブ

・「だれでもKadareru柔道教室」 河南中学校格技場　・「みんなKadatte野球教室」 津軽石中学校グランド

〇市の社会体育施設を活用した地域クラブ

・「まずKadatte剣道教室」 市総合体育館多目的体育室　・「みんなKadatteラグビー教室」 へいがわ老木公園グランド

・「みんなKadatte陸上教室」 ヒロセ陸上競技場（市運動公園陸上競技場）・「Kadatteバレーボール教室」 市総合体育館メインアリーナ

・「まずKadatte合同トレーニング」 宮古市総合体育館メインアリーナ

〇岩手県の施設を活用した地域クラブ　：「まずKadatte宮古湾ボート天国」 リアスハーバー宮古

取組の成果

〇学校体育施設及び社会体育施設を利用することで、施設利用料の負担が軽減された。

〇社会体育施設を利用することで、学校体育施設では練習できない内容や体験が可能となった。

※陸上競技場：本格的なリレー練習、冬季でも夏季と同じ練習メニューで練習ができた。

※剣道、バレーボール：多数参加ができ、冬季でも暖房のある施設で、安全に活動できた。

今後の課題と対応方針

〇受け皿が拡大した場合、「学校施設開放事業」との調整が必要となる。一般の利用者との共存を図りながら安定した活動にするために受け皿の競技団体と連携を密にしていく必要がある。

〇社会体育施設を利用する場合は使用料の負担があるが、練習をする上でメリットが多く参加する生徒の意欲付けにもなることから、引き続き活動の支援（使用料の負担等）を検討する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

「まずKadatte」合同トレーニング実施　：Kadatteスポーツクラブ主催

〇地域クラブ名：Kadatteスポーツクラブについて
　部活動地域移行推進実働チーム、通称「まずKadatte」が事務局を担った。
〇活動の目的：チーム宮古として、各地域クラブの指導者、生徒が一堂に集うことで、一体感を増し、さらなる意欲的な活動につなげることを目的に開催した。
〇活動の内容：多様な体験活動として、柔道の受け身、ラグビーのコンタクト練習体験、バスケットボールの基礎練習、ニュースポーツ「キンボール」体験等

取組の成果

〇実証事業に取り組んでいる指導者、生徒が一堂に集って活動したことで参加した生徒は大勢の仲間と活動することの喜びと、スポーツをする楽しさを、指導者は他競技の指導法に触れながら指導者同士の連携を深めることができた。

指導者の属性や配置の工夫

〇Kadatteスポーツクラブの組織
・会長：教育長　・副会長：教育部長
・事務局長：生涯学習課スポーツ振興係副主幹
・事務局員：統括的な地域学協働活動推進員、教育研究所所長、体育協会事務局長・総務係長
〇指導者：実証事業参加の競技団体の指導者
〇参加者：地域クラブ参加生徒及び市内の生徒、学校部活動の合同チーム参加生徒

〇実証事業参加の競技団体
宮古市陸上競技協会、宮古剣道協会、宮古柔道協会、宮古市バレーボール協会、宮古ラグビーフットボール協会、宮古野球協会、宮古シーカヤック協会
〇指導者の配置の工夫
・進行係：体育協会職員と中学校教員
・アイスブレイク担当：パーソナルボディーケアジム経営者の専門家に依頼

今後の課題と対応方針

〇実証事業の受け皿となっている競技団体同志が連携し合うことで、実証事業終了後も持続可能な取り組みになるような仕組みを構築することが必要である。
〇合同トレーニングの複数回の開催を目指し、参加生徒が意欲的に活動できる内容する。また、どの競技にも必要な基礎体力がつくようなトレーニングを取り入れながら、参加生徒の体力増進につなげていく。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

〇地域スポーツクラブ活動体制整備事業の地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業の委託を受けての２年目は、本格的な実証事業実施に向けて部活動地域移行推進実働チーム（通称：「まずKadatte」）を設立し、活動の理念を「未来ある子どものたちのために手を取り合う」とし、基本方針を「学校部活動を支える」とした。実証事業の受け皿となった各競技協会の多くが方針に賛同し、実証事業（地域クラブ活動）がスタートした。
〇少子化に伴い各中学校では団体競技において、ほとんどの学校が単独でチームを作ることができず、合同チームで大会に参加している。毎年部員数が減少し、団体競技を廃部や募集停止する学校が増えてきている。子どもたちが好きなスポーツをできる環境づくりが喫緊の課題である。

●成果の評価

〇部活動地域移行推進実働チームを発足し、学校部活動の実態把握のための学校訪問を行ったことで、学校現場の困り感と急激な少子化により、子どもたちが多くの仲間と触れ合いながらスポーツができる環境が減少している現状を知ることができた。実態把握に努め「**子どもの将来のために**」学校、地域、行政が連携する組織運営が構築された。
〇部活動地域移行推進実働チームの方針に賛同した各競技協会主催の地域クラブ活動に参加した多くの生徒からは、大勢で活動する喜びと専門的な技術を教えてもらえる喜びの声が寄せられた。指導者からは、少子化に伴い部活動が成り立たなくなっている現状を救ってあげたいなどの声が多く寄せられている。

●今後に向けて

〇地域の宝である子どもたちのために、各競技協会で主催する休日の地域クラブ活動と多様な体験活動に自主的に参加できるような仕組みを構築する。
〇実証事業終了後に持続可能な地域クラブ活動にするため、地域クラブ間の連携を深める活動（合同トレーニング等）を定期的に実施し、学校、地域、競技団体等と協議しながら、総合型地域スポーツクラブへの移行を視野に入れ、検討を進めていく。

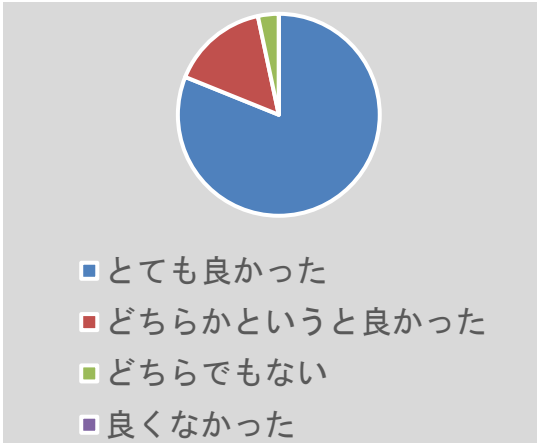
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

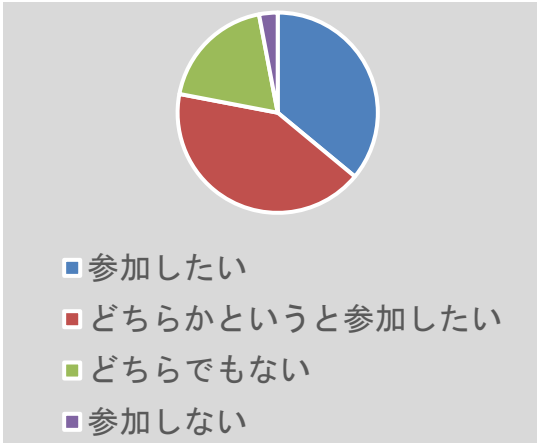
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（生徒）

Q.休日の地域クラブに参加してどうでしたか？

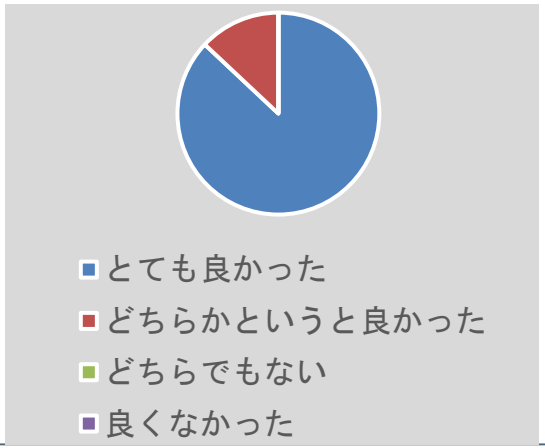


Q.休日の学校部活動が地域クラブに移行した場合は参加しますか？

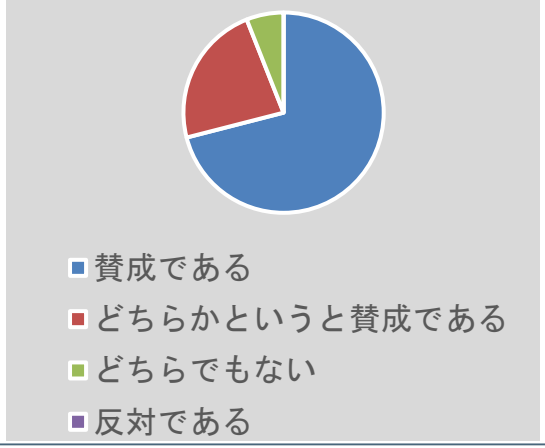


●アンケート結果（指導者）

Q.休日の地域クラブに参加してどうでしたか?



Q.部活動が地域クラブに移行することについてどう思いますか？



●参加者の声（生徒）

・学校とは違う練習があって楽しかった。
・いつもの部活動では得られない学びがあってとても良かった。
・もう少し先生方と稽古をする時間がほしかった。
・多くの仲間と交流ができて良かった。
・高いレベルの指導が受けられて良かった。

●参加者の声（指導者）

・少子化で部活動の練習が思い通りにできないので地域移行が進めばいいと思う。そのためには協力する。
・学校部活動の数が制限され、やりたい活動ができない現状がある。だから地域移行は必要である。
・地域で育てることで大人との関わりが増え、大人も育つ。

・先生方は転勤があり、長年にわたりその競技を維持することが難しいので、地域として取り組んだ方がいい。
・地域クラブで活動することで、同世代の仲間が増え、その中でコミュニケーション力を磨いてほしい。
・生徒の選択肢が広がり、色々なスポーツにチャレンジできる。

●参加者の声（指導者）課題等

・場所の確保、指導者の手当、学校教員の参加体制
・子供達に好きなスポーツを選んで、思い切り活動できるような様々な立場の大人が協力したり、知恵を出し合っていくことが必要である。
・学校（教員）と地域クラブの指導者の指導方針が一致すること。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

・地域クラブ開催要項（各学校への案内要項）資料

●合同トレーニング開催要項



令和6年度　休日の中学校部活動地域移行実証事業
「まずKadatte」合同トレーニング開催要項

1 主　催　宮古市教育委員会
　　地域スポーツクラブ活動体制整備事業・運動部活動の地域移行に向けた実証事業・部活動地域移行推進実働チーム「まず**Kadatte**」

2 目　的　各地域クラブ（実証事業参加の競技団体）の生徒・指導者が一堂に集い、合同トレーニングをすることでチーム宮古として一体感が増し、更なる意欲的な活動が期待できる。

3 開催期日　令和7年2月11日（火）　９：３０～１２：００

4 会　場　宮古市民総合体育館（シーアリーナ）メインアリーナ
　　宮古市小山田二丁目1番1号　℡：0193-62-6000

5 参加対象　①実証事業参加生徒　②参加希望の市内中学生
　　③実証事業指導者　④参加希望の市内教員

6 参 加 料　無料

7 活動内容　**スローガン：[みんなKadatte]冬場に鍛えて、春の本格的な競技シーズンに向かおう。**
　　アイスブレイク・基礎トレーニング・レク的トレーニング等

8 持 ち 物　室内用トレーニングシューズ（学校用上履き等）・水分補給用の水筒等、防寒用　（ウインドブレーカー、手袋等は自由持参）

9 申込方法　添付の参加申込書を**１月３１日（金）までに**、生涯学習課担当あて,メールで申込をお願いします。

●実証事業第1号「Kadatte陸上教室」





走って!跳んで!投げて!かだって!
宮古市内中学校陸上競技チャレンジ教室1st
今回は，走る!

6月1日(土)は，通信陸上宮古地区予選です。

陸上競技は，全てのスポーツに通じる運動です。
陸上競技は，「走る」「跳ぶ」「投げる」全ての運動要素を含んだ運動です。

今，宮古市の中学校には常設の陸上競技部はありません。
でも，別の見方をすれば，陸上競技部がないから，他の部に所属している生徒全員に陸上競技に取り組むチャンスがあると言えるのです。

普段，自分の所属している部の活動がない日曜日に，陸上競技チャレンジ教室を開催します。
大会に向けて頑張りたい人も，今回は大会に出場しないけれども自分の可能性や力を伸ばしたい人も，自分が普段取り組んでいるスポーツのために参加してみたい人も，全ての人を大歓迎します。

走って!跳んで!投げて!チャレンジ教室に「かだって!」

日　時：令和6年5月26日（日）午前9時30分～午前11時30分
場　所：東北ヒロセ陸上競技場（宮古運動公園陸上競技場のことです。）
　　4月1日からネーミングライツにより「東北ヒロセ陸上競技場」になりました。
主　催：宮古市陸上競技協会
共　催：宮古市教育委員会
内　容：①ウォーミングアップの仕方
　　②走りの基本，スタートの仕方，
　　③中長距離の練習パターン
　　④リレーの実戦練習
指導者：内容①②　井原　誠司　コーチ（宮古市体育協会）
　　内容③④　五十嵐善彦　コーチ（宮古市陸上競技協会）
費　用：かかりません。
持ち物：ウィンドブレーカー，長袖長ズボンの運動着，
　　半袖短パンの運動着（ハーフパンツ可）
　　※日頃の学校の運動着でOK
　　タオル，補給用の水分
　　走りやすい靴，スパイクがある人は持って来てください。
　　*スパイクのピンは全天候用の平行ピン
会場までの移動について：
　　大変もうしわけありませんが，今回は各自移動をお願いします。
申し込み：
　　一人一人の中学生：各中学校の担当の先生に参加したことを伝えてください。
　　各中学校の担当の先生：別紙申込一覧表に学校分をとりまとめ，宮古市陸上競技協会にメールで申し込みをお願いします。
　　宮古市陸上競技協会　miiyako.rikujou@gmail.com
　　担当　五十嵐
締め切り：5月21日（火）午後5時

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料　特設部活動支援地域クラブ活動写真：陸上競技



【ウォーミングアップ　ドリル】



【平日できないマンツーマン長距離練習】



【フォームづくり　腕振り】







【総合型地域スポーツクラブ合同練習会：リレー練習、冬場のトレーニング、リズム運動】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料　学校部活動支援地域クラブ活動写真：柔道競技　剣道競技



【みんなで準備運動】



【乱取り】



【寝技の指導】



【そろって面付】



【構え】



【師範と稽古】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料　学校部活動支援地域クラブ活動写真：軟式野球競技　女子バレーボール競技



【ティーバッティング練習】



【自分の考えを伝える】



【ポイントを確認してバッティング】



【基本練習：オーバーパス】



【実戦で確認】



【基本練習：ペアリング】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

参考資料　多様な体験活動写真：ラグビーフットボール競技　シーカヤック競技



【ラインアウト練習　タワー】



【ラグビースクール生と体験者とのミーティング】



【タックル練習】



【パドリング練習】



【サップ体験】



【シーカヤック体験】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年	令和６年		令和7年	令和8年～
検討委員会設置 生徒、保護者、教員、競技団体へのアンケート実施	**地域移行実働チーム発足** 方針・組織策定	**実態把握**（学校訪問、部員数把握） **競技団体との合意形成**	**実証事業実施** 参加者、指導者意識調査 **検討委員会実施** (実証事業中間報告)	**実証事業実施** 受け皿になる競技団体の拡大 **検討委員会実施** (実証事業の総括)	**地域クラブ活動運営協議会(仮称)設置** 連絡協議会設置 持続可能な地域クラブ活動の構築

●ステークホルダー

学校、体育協会、各競技団体
市長部局、市教育委員会事務局、統括コーディネーター

●経過

令和５年度、市教育委員会生涯学習課が事務局となり、部活動地域移行検討委員会を設置し、本格的な実証事業に向けての実態把握（生徒、保護者、教員、各競技団体へのアンケート）と試行的実証事業を実施した。令和６年度は総括コーディネーターを配置、部活動地域移行推進実働チームを設置し地域移行プロセスと部活動の地域移行の基本方針を作成し、本格的な実証事業を実施した。

●実施内容、工夫した点 等

実働チームが各競技団体へ地域移行の趣旨説明をし、合意形成を図る。その後、地域クラブ活動実施の依頼をする。各競技団体は各中学校へ地域クラブの開催を案内し、各中学校は参加者を取りまとめて競技団体に申し込む。実証事業（地域クラブ活動）実施となる。

●実施にあたって生じた課題

〇受け皿となる競技団体は、ほとんどが審判中心の協会であるため、指導者の確保が難しい。実働チームと学校教育課とが情報を共有しながら、部活動指導員の配置とその活用を工夫し、指導者確保に努めている。
〇本市は県内一の広大な面積を有し、移動に時間がかかる。中心市街地から遠い生徒の移動が課題である。

●今後の展開

〇令和７年度からは、令和６年度実施した地域クラブ活動を継続しながら、未実施の競技について、各競技協会と更なる連携を深め実施できるよう、より具体的な手立てを提案する。併せて、指導者同士が連携して、各地域クラブが合同でトレーニングを実施しながら、「チーム宮古」で持続可能な地域クラブ運営になるように進めていく。
〇市長部局が勧める中学生の公共交通機関の無料化による利用促進と休日のスクールバス利用等を検討しながら、多くの生徒が地域クラブに参加しやすい環境づくりに努めていく。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

宮古市の中学校運動部活動地域移行プロセス（案）

地域移行の実証事業期間

地域クラブ活動の充実

実証事業終了　地域移行へ

＊地域クラブ活動運営協議会(仮称)の設置

実証事業（地域クラブ)スタート

＊推進実働チームから運営協議会へ

（業務委託先等検討、管理運営について）

地域移行に向けた準備

＊部活動地域移行推進実働チーム

（方針の見直し、体制の再構築）

（持続可能な地域クラブ活動の検討）

＊アンケート調査

（チーム宮古「まずKadatte」）設置

＊学校部活動と地域クラブとの連携強化

＊連絡協議会設置

（小・中学生、保護者、教員、競技団体等）

＊部活動地域移行方針

（実態把握、部活動数の推移、合同チーム）

（教育委員会・学校・競技団体等・地域クラブ）

＊部活動地域移行検討委員会開催

（学校訪問、各競技団体等へ説明）

＊部活動地域移行実証事業のまとめ

（連携の在り方、情報交換等）

（実施s計画、アンケート結果報告）

＊協力競技団体実証事業（地域クラブ）実施

＊部活動地域移行検討委員会（事業報告）

令和８年度～令和10年

＊試行的な実証事業実施

（休日の学校部活動支援・多様な活動）

令和７年度

持続可能な地域クラブ移行期間

（陸上、野球、ラグビー、女子バスケ）

令和６年度

令和５年度

休日の部活動の緩やかな地域移行期間

目指す姿：〇スポーツに親しむ機会の確保　〇働き方改革の推進　〇持続可能な部活動　〇多様なスポーツ環境の整備 〇多様な体験活動の確保

＜組織づくりの流れ＞

1 部活動地域移行検討委員会	2 部活動地域移行推進実働チーム	3 部活動地域移行推進実働チーム	4 地域クラブ活動運営協議会(仮称)
実施の方向性・アンケート結果報告	移行の方針　学校部活動の実態把握	実証事業のまとめ	地域クラブ活動の拡充と連携強化
実証事業開始	学校のニーズ、協力競技団体への依頼	実証事業から持続可能な活動へ	持続可能な地域クラブ活動の支援
	実証事業の本格実施	事務局・委託先等検討	総合型地域スポーツクラブとの連携
			Kadatteスポーツクラブの活動実施